時事英語リーディング１

楠　浩恵

１．はじめに

立教大学で，自由選択科目の時事英語リーディング１を受講する学生は１年から４年まで幅広く又，英語に対する意識は高い。帰国子女，外国人留学生や英語履修免除生も数多く含まれている。

国際社会の真っ只中で生きる私達にとって時事英語は，最新の情報源であると共に生きた英語がふんだんに用いられている点で興味深い科目と言える。

この授業の主な目的は，①英字新聞や雑誌を通じて国内外のニュースに親しみ，自力でそれらを読み，理解し，自分の意見をまとめることが出来る，②音読を通じて速読と精読の訓練をする，③outside readingで多読の習慣化を促す，④時事英語の語彙をふやす，そして⑤時事問題に対する関心を深めることである。

ここでは，1998年度前期から，2000年度後期までの時事英語リーディング１の授業について紹介する。

２．授業内容

2.1　単語テスト（５分）

「茅ヶ崎方式国際英語基本4000語自己チェックシート」の中から，学生は，１週間に100語勉強し，そのうち30語の単語テストを毎回受ける。単語テストの目的は，時事英語関連単語1,000語を習得する事である。

2.2　Group Discussion（20分）

学生がoutside readingから，自分で選んだ前週の関連記事を紹介し，それについて自分の意見を述べ，議論する。（前週の関連記事をインターネットや，Time, Newsweek, The Japan Times, CNN News，などから探し，その記事の要約，記事に対する自分の意見を書いたものを事前に準備し，それをもとに議論する。）Group Discussionの目的は，与えられた記事だけではなく自分で記事をみつけ，自分の意見を述べ，多読の習慣をつける，そして，英字新聞や英字雑誌に慣れ親しむ事である。

2.3　週刊STを使ったTimed ReadingとCloze Exercise（65分）

2.3.1　Timed Reading①　時間を計りながらの音読（１回目）Buzz Reading

授業の最初に配布された記事を予習なしで音読する。リズムやイントネーションを損なうchorus readingよりも

buzz readingのほうが望ましいと隈部（1980）は述べ，その理由として，学生一人一人が納得出来るペースで音読が出来る点をあげている。Buzz reading では，速く読み終わった学生が手持ちぶさたになることが懸念されているが，ここでは，速く読み終えた学生には，次の内容理解をはかるcloze testに向けて，各自意味の確認や，文字を正しくspelling 出来る様に指導する。LL設備があれば，テープに続いてよく読ませることも出来る。ヘッドフォンをつけていれば，自分の読み方を他人に聞かれることが少ないから安心して自分のペースで読める。

2.3.2　教師の解説

2.3.3　Self Study　自己学習

Cloze Testにむけて，意味の確認，spellingの学習等をする。学生の「空読み」(eye-mouth reading) の欠点を除くためには，教材の内容を理解させて，音読させるのが望ましいと石井(1970)は述べている。理解のできた英語の文章を，自分で確かめながら読めることが，言語の習得からいって楽しいことを学生に理解してもらうことが重要である。

2.3.4　テープを聞く（Slow-speed tape使用）

発音，イントネーション，ストレス等の確認をする。

2.3.5　Timed Reading②-⑤　時間を計りながらの音読（２回目－５回目）Buzz Reading

速く読み終わった学生はCloze Testにむけて意味の確認，spellingの確認等をする。

2.3.6　Shadowing シャドウイング（Natural-speed tape使用）

ニュースキャスターになった気分でテープと同時に音読する。５回の音読の成果が図れる。

2.3.7　Cloze Testと自己採点

３．授業の実践の結果

3.1　教材としての週刊ST

週刊STは概ね好評である。その理由としては，次の事が推測される。①ニュースが新鮮である，②一つの記事の長さが，250 words前後なので，音読に適している，③注釈がヒントになるのでとっつきやすい。④付属テープの速度が，slow speeds(100 words 前後)とnatural speed (150-180 words 前後)の２種類あるので，目的別に使い分けられる。⑤natural speedでのシャドウイングはやりがいがある。

3.2　Timed Reading

５回timed readingをすると，英文の記事を最高で45秒，最低で10秒，早く読めるという結果がでた。

1999年５月に実施した国内ニュースを取り扱った記事では，音読１回目の平均wpmが111，音読５回目の平均wpmが142で，31wpm速く読めるようになった。又，1999年６月に実施した国外ニュースを取り扱った記事では，音読１回目の平均wpmが109，音読５回目の平均wpmが140で，31wpm速く読めるようになった。以上のことから

５回音読するとおよそ30wpm速く読めるようになると言える。

3.3 Cloze Test

Cloze Test の結果によると，exact answers ではなくother answersの学生の解答が，興味深い。例えば，leaderの代わりにpresident, unrestの代わりに riot， Parliament の代わりにNational Assembly, Diet, Congress等。Cloze Testは，ただ単に暗記力を試すtestだと感じている学生もいるかもしれないが，exact answerをどうしても思い出せなくて，自分の知っている単語で置き換えていることに高い語学力を感じる。

1999年５月に実施したcloze testによると，国内ニュースの理解度の平均は77％で，理解度60％以上の学生は，28名中24名で，全体の86％であった。さらに，1999年６月に実施したcloze testによると，国外ニュースの理解度の平均は66％で，理解度60％以上の学生は，23名中17名で，全体の74％であった。このことから，国内ニュースと国外ニュースを比べると国内ニュースの理解度が高いと言えよう。

3.4 Timed Reading とCloze Testによる理解度

速く読めても理解が伴わなければ意味がないし，逆に理解できていても読む速度があまりにも遅いようでは役に立たない。このように読みの速さは理解度抜きにしては論じられないので，reading efficiency indexを速さのものさしとして用いることがある。（高梨・高橋　1987）これは，速さのデータに理解度を掛けるもので，例えば，200wpmで読んだ場合，理解テストが，70％の正当率であったら，「読み効率」は140wpmということである。正当率100％の人の140wpmと同一と見なせるだろうかということは論議されると思うが，ここでは，reading efficiency indexも一つの物差しとして使った。

1999年５月に実施したcloze testによると，国内ニュースを取り扱った記事では，reading efficiency index (rei)は111wpmで，1999年６月に実施したcloze testによると，国外ニュースを取り扱った記事では，reiは93wpmであった。ここでも，また，国内ニュースと国外ニュースを比べると国内ニュースの理解度が高いと言えよう。

又，cloze正当率，音読結果，reiの結果により，速く読める学生は，遅く読む学生より理解度も高い傾向にあると言える。

4．学生からのフィードバック

アンケートの結果，英字新聞を読むことに関しては，91％の学生があまり抵抗なく英字新聞を読めるようになったと回答している。授業で扱う週刊STの記事に関しては，91％の学生が，「最近の話題のものが多くおもしろかった。」「幅広い分野の記事が読めたので，各分野の重要な専門用語を学べてよかった。」等，好意的な回答を寄せてくれた。中には，「記事が少し短いように感じた。しかしoutside readingでカバー

出来たと思う。」という回答もあった。音読の速度に関しては，全員が向上したと回答している。「初めは，ただ速く読むだけで，頭に入っていなかったが，最後の頃はきちんと理解しながら速く読めるようになった。」「記事の内容を理解してからだと音読しやすかった。」「内容を理解し，発音にも気をつけ，かつ速読出来る様努力した。知らなかったり，発音のわからない単語に気をつけて一度読み，理解してからだと速読しやすかった。」「今まで，朗読する機会が少なかったのでここで訓練できて良かった。」「普段から声にだしていることが大切だと思う。」「読めば読むほど自然に単語に慣れ，覚えていった。語彙も増え，いろいろな記事を読むうちに前に学習した単語がでてきたりして読むのが楽しくなった。記事の内容を理解しながら，速く読めるようになった。」「最初は，こんなこと出来るだろうかと心配だったが，音読に慣れて，速くよめるようになった。朗読の機会が今まで少なかったのでここで訓練して，少し英語がスムーズに朗読出来る様になった。」「５回音読した後，natural speedで読まれているテープについてアナウンサーになった気分で一緒に読むシャドウイングは，challengingだ。」，等，好意的なコメントが目立った。また，「音読のおかげで，映画なども聞き取れるようになった。」と言う音読の向上をリスニング力の向上に結び付けている点は，興味深い。

中には，次のようなコメントがあったことも明記したい。「速く読めるようになったが，それについていく理解力がない。文章を速く読む練習は音読より黙読のほうがよいと思う。発音して読むと遅くなる。音読だけでは頭に入らずcloze testのスコアも悪くナーバスになっていた。原因は私の単語の知識，時事関係の知識，集中力の欠如からくるものだと思う。」

５．終わりに

時事英語リーディング１の授業では，時事英語を通して，リーディング力の向上を図る事を目的としてきた。安藤（1979）は，日本人大学生の英語のリーディング能力は例外なくwpm 100以下，理解度60％以下と報告しているが，この時事英語リーディングの研究によれば，第１回目のtimed readingの平均は110wpm で，安藤の平均的大学生と比べると，10wpmも高く，あらためて立教大学の時事英語リーディングを受講する学生の能力の高さには驚かされる。毎回５回音読することで平均30wpmも速く音読出来るようになり，第５回目のtimed readingの平均は140wpmで，理解度も国内・海外のニュースをあわせると，平均70％をこえている。このことから，当初の目的は達成できたと思う。

立教大学には素晴らしいＬＬ教室とコンピュータ教室が完備されている。2000年度後期の時事リーディング１の授業では，実験的にＬＬ教室を使用してみた。内容理解を図る為に，英文記

事の中から大切な単語を抜いて作成したfill-in the blank exerciseを，各自テープを聞いて解答した後，timed readingの訓練をしたり，shadowingの練習では，drill機能を利用して，自分の声をテープにオーバーラップさせ，テープを巻き戻して，どれだけ自分の英語がネイティブスピーカーの英語に近いか，どうすればもっと英語らしくなるかというような訓練をしたりした。教師は，インターカム機能を使って，学生一人一人の発音指導等，個別指導を心がけた。

又，outside readingのレポート作成にあたっては，学生がかなり苦労している事を知り，最初の授業でコンピュータ教室を使用し，下記のように，フォーマットの説明をすると良い事がわかった。①紙のサイズはＡ４，②文字の大きさは12，③フォントは Century，④１行の文字数は半角で66文字，全角で33文字（直接入力使用），⑤１ページの行数は26行，⑥パラグラフの最初はインデントし，５スペースあける，⑦左揃えに設定する，⑧ピリオドとコンマの後は１スペースあける，⑨タイトルはセンタリングし，各単語の最初は大文字を使用する，⑩スペルチェック，グラマーチェック機能を必ず使う。さらに，インターネットでの英文関連記事の検索の仕方についても練習することが必要であると感じた。

今後の課題として，意欲も英語能力も高い学生が，時事英語を通して，リーディング力のみならず，英語能力（listening, speaking, reading, and writing）を高めることが出来るように，コンピュータ教室や，ＬＬ教室を使用した授業の研究に取り組みたい。

（くすのき　ひろえ
本学ランゲージセンター英語嘱託講師）

参考文献

安藤昭一（1979）「読む英語」波多野完治ほか『現代の英語教育　第５巻』（東京：研究社出版）

石井正之助編（1970）「読む領域の指導」『講座・英語教授法　第５巻』（東京：研究社出版）

隈部直光ほか（1980）「英語教育の常識」（東京：中教出版）

高梨庸雄・高橋正夫（1987）「英語リーディング指導の基本」（東京：研究社出版）

茅ヶ崎方式英語会編著（1998）「茅ヶ崎方式国際英語基本4000語自己チェックシート」（東京：茅ヶ崎出版）

「週刊ST」1999年５月21日

「週刊ST」1999年６月25日